

大井実の
BOOKな話

福岡市内で書店『ブックス
キューブリック』をいとなむ
大井実さんの、本のある日
常をつれづれに。
撮影／川上信也

忙しい毎日、つかの間のリゾート気分
に浸って、夏の疲れを癒やしませんか。



『小さな森の家 軽井沢
山荘物語』
吉村順三／建築資料研究社
／2,447円



『Maiden Voyage』
Herbie Hancock／ユニ
バーサルミュージック/
1,700円／品番 TOCJ-
7090



夏といえばリゾート。今月は忙しい日常の中、ページをめくるだけでたっぷりリゾート気分を味わえる一冊をご紹介します。日本を代表する建築家・吉村順三氏の「小さな森の家」です。この本は、氏が自ら設計し所有していた軽井沢の別荘を写真や設計図で紹介しているもので、初版は'96年。もう20年近く前の発行ですが、店でも在庫をきらすことはありません。

いろいろなシーンを切り取った室内の写真と、そこできつろぐ人びとの様子。軽井沢の四季を捉えた美しい風景写真。とにかく心地よい空間の広がり、自分もそこにいるようなさわやかな気持ちになれる写真集のような本です。

別荘というと何となくゴージャスなイメージを持ってしまいがちですが、タイトルをみてもわかるように、彼の別荘は決して大きくも、派手な調度品を揃えているわけでもない。「木の上で鳥になったような気持ちになれる家

作りたかった」と前書きにあるように、軽井沢の森にたたずむ、自然のほんの一部のような佇まいです。

壁一面の開放けた窓から見えるのは美しい木々の連なりだけ。風の音、鳥の声、緑の匂いがそのまま感じられる造りは、まさに森の延長線にあるよう……。本当にいい家とは何か。そのノウハウもたつぷり詰まっています。

リゾートという言葉ですぐに連想するCDは、その印象的なジャケットからハービー・ハンコックの「Maiden Voyage」（処女航海）です。ジャケットのイメージ通り、洋上に浮かぶヨットの疾走感を表現したような開放感に溢れた演奏が印象に残ります。ピアノのキーボードをリズムカルに、ドラムのように叩くスリリングな表現が、ゆつたりとしたリゾートの空気に意外に合っています。現役のジャズジャイアントとして今も活躍する貴重なアーティストの代表作です。